

「全鍍連」 2016年 11月号 理事長のよこがお

富山県鍍金工業組合 理事長 園 晶雄 (立山電化工業(株) 代表取締役社長)

「未来を拓く北陸」

富山県鍍金工業組合の理事長の園晶雄と申します。2008（平成 20）年に理事長を拝命し、現在に至ります。

さて、富山県民（高岡市民）の視点で、北陸新幹線を起点とした思いを述べてみたいと思います。

2015 年 3 月 14 日に北陸新幹線が金沢まで開通しました。北陸新幹線の長野駅～金沢駅間には新たに 7 駅が設けられ、「新高岡駅」と「黒部宇奈月温泉駅」が開業と同時に新設されました。東京駅～新高岡駅が約 2 時間 20 分で結ばれ、都市圏が近く感じるようになりました。東京へ飛行機を使うことはめっきり減りました。

将来、この北陸新幹線が富山・高岡・金沢を経て福井まで、最終的に大阪まで全線開通することになれば、首都圏の人が北陸を経由し関西圏へ向かうことが可能になります。

日本海沿岸地域の北陸は、台風や地震の被害を受けにくい地域であるといわれています。自然災害がいつどこで起きるかは予測できませんが、大規模災害のリスク分散の意味でも、太平洋側に加えて、日本海側にも動脈をつくる意味は非常に大きいと考えます。

また、富山県には外国船舶の玄関口となる伏木富山港という“国際拠点港湾”もあります。“国際拠点港湾”は本州の日本海側では伏木富山港と新潟港の 2 港のみです。伏木富山港は、ロシアや中国との玄関口という役割を果たしています。伏木富山港は、本州のほぼ中央に位置し、能登半島に守られ、風波の影響を受けにくく、古くから栄えてきました。今後は、大規模災害時における太平洋側港湾の代替となり得るポジションにあると考えています。

皆さんは、「昇龍道（ドラゴンルート）」というものをご存じでしょうか？

これは、中部・北陸地方を「龍」に見立てた太平洋側（南）から日本海側（北）へ縦断する観光ルートです。官製プロジェクトとして、中部運輸局、北陸信越運輸局、中部広域観光推進協議会が、中部北陸 9 県の自治体（富山県・石川県・福井県・長野県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県・滋賀県）、観光関係団体、観光事業者等と協力して、中部北陸圏の知名度向上を図るために行われました。

このプロジェクトは官主導で上手に進められているように思います。この昇龍道が、外国人観光客に認知され人気が出てきているようです。今後、定着することを期待しています。

裏日本と呼ばれることもある日本海側ですが、視点を変えれば発展の余地が大きいということです。北陸新幹線も開通した現在、私たち富山県や北陸地区は、「飛越能」をはじめ広域圏での連携を図り、鉄道や道路（陸）・空路

（空）・港（海）の機能と、地の利をさらに活かし、新しい観光ルートや新しいビジネスを構築できる可能性が大いにあり、と感じています。当富山県鍍金工業組合もその一助になればと思う次第です。

さて、未筆になりますが、富山県ネタとしまして、8月のリオデジャネイロ五輪において、富山県出身の登坂絵莉選手がレスリング女子 48 キロ級で、田知本遥選手が柔道女子 70 キロ級で、それぞれ金メダルを獲得されました！特に登坂選手の父上は鍍金材料商社の営業マンであり、以前からお付き合いがあったため、応援にはなおさら熱が入りました。

この快挙に富山県内は大変な盛り上がりを見せています。二人には県民栄誉賞が贈られ、凱旋パレードでは沿道からたくさんの歓声が飛んでいました。今後ますます活躍されることを期待しています。

（立山電化工業株式会社 代表取締役社長）